

表2. 性感染症罹患経験の年齢分布

年齢区分	男性外来患者 (n=225)						女性外来患者 (n=96)						セックスワーカー (n=367)								
	あり		なし		わからない		P値	あり		なし		わからない		P値	あり		なし		わからない		P値
	n	%	n	%	n	%		n	%	n	%	n	%		n	%	n	%	n	%	
<30歳	23	38.3	25	41.7	12	20	0.25	40	60.6	23	34.8	3	4.5	0.63	129	86.0	13	8.7	8	5.3	0.02
30-39歳	36	53.7	26	38.8	5	7.5		11	55	9	45	0		115	82.7	23	16.5	1	0.7		
40-49歳	32	54.2	22	37.3	5	8.5		4	57.1	2	28.6	1	14.3		53	85.5	9	14.5	0		
50歳以上	17	48.6	15	42.9	3	8.6		1	33.3	2	66.7	0			14	100	0		0		
合計	108	48.9	88	39.8	25	11.3		56	58.3	36	37.5	4	4.2		311	85.2	45	12.3	9	2.5	

表3. これまでに罹患したことのある性感染症 (複数回答)

性感染症名	男性外来患者 (n=108)				女性外来患者 (n=56)				セックスワーカー (n=311)				P値
	あり		なし		あり		なし		あり		なし		
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	
クラミジア	38	35.2	70	64.8	45	80.4	11	19.6	234	75.2	77	24.8	0.00
淋病	26	24.1	82	75.9	9	16.1	47	83.9	134	43.1	177	56.9	0.00
梅毒	13	12	95	88	1	1.8	55	98.2	10	3.2	301	96.8	0.00
性器ヘルペス	17	15.7	91	84.3	4	7.1	52	92.9	64	20.6	247	79.4	0.04
コンジローマ	21	19.4	87	80.6	3	5.4	53	94.6	51	16.4	260	83.6	0.06
カンジダ	0		108	100	2	3.6	54	96.4	9	2.9	302	97.1	0.18
ケジラミ	0		108	100	0		56	100	1	0.3	310	99.7	0.77
唇ヘルペス	1	0.9	107	99.1	0		56	100	0		311	100	0.18
尿道炎	6	5.6	102	94.4	0		56	100	0		311	100	0.00
トリコモナス	1	0.9	107	99.1	0		56	100	8	2.6	303	97.4	0.30
のど淋	0		108	100	0		56	100	2	0.6	309	99.4	0.59

表4. 来院日におけるHIV検査予定の有無の年齢分布

	男性外来患者 (n=224)				女性外来患者 (n=93)				セックスワーカー (n=364)						
	はい		いいえ		P値	はい		いいえ		P値	はい		いいえ		P値
	n	%	n	%		n	%	n	%		n	%	n	%	
<30歳	24	38.7	38	61.3	0.75	13	20.3	51	79.7	0.02	92	61.7	57	38.3	0.19
30-39歳	20	29.9	47	70.1		11	55	9	45		99	71.7	39	28.3	
40-49歳	19	32.2	40	67.8		1	16.7	5	83.3		44	71	18	29	
50歳以上	12	33.3	24	66.7		1	33.3	2	66.7		12	80	3	20	
Total	75	33.5	149	66.5		26	28	67	72		247	67.9	117	32.1	

表5 来院目的がHIV検査でなかった受診者における無料検査希望者の割合

		男性外来患者		女性外来患者		セックスワーカー		合計		P値
		n	%	n	%	n	%	n	%	
本日の無料検査受検希望	はい	141	94.6	66	98.5	110	94	317	95.2	0.36
	いいえ	8	5.4	1	1.5	7	6	16	4.8	
	合計	149	100	67	100	117	100	333	100	

表6. HIV関連知識質問に対する回答結果

	男性外来患者						女性外来患者						セックスワーカー						合計						P値
	正しい		正しくない		わからない		正しい		正しくない		わからない		正しい		正しくない		わからない		正しい		正しくない		わからない		
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	
1.最近、わが国のHIV感染者数は増加している(O)	200	89.3	3	1.3	21	9.4	81	84.4	1	1	14	14.6	320	87.7	2	0.5	43	11.8	601	87.7	6	0.9	78	11.4	0.57
2.最近、わが国のHIV感染経路は性行為によるものが最も多い(O)	191	85.3	7	3.1	26	11.6	83	86.5	3	3.1	10	10.4	275	75.1	24	6.6	67	18.3	549	80	34	5	103	15	0.02
3.治療薬の進歩で、HIVに感染してから発症するまで期間を遅らせる(O)	176	78.6	4	1.8	44	19.6	51	53.1	3	3.1	42	43.8	264	72.1	9	2.5	93	25.4	491	71.6	16	2.3	179	26.1	0.00
4.HIVに感染している妊婦から赤ちゃんにHIVが感染する可能性がある(O)	178	79.8	14	6.3	31	13.9	81	84.4	1	1	14	14.6	292	79.8	17	4.6	57	15.6	551	80.4	32	4.7	102	14.9	0.35
5.性感染症に罹っていると、HIVに感染しやすい(O)	154	68.8	21	9.4	49	21.9	56	58.3	8	8.3	32	33.3	197	54	27	7.4	141	38.6	407	59.4	56	8.2	222	32.4	0.00
6.健康に見えてもHIVに感染している可能性がある(O)	205	91.5	2	0.9	17	7.6	86	89.6	1	1	9	9.4	317	87.1	4	1.1	43	11.8	608	88.9	7	1	69	10.1	0.58
7.保健所では名前を言わずに無料でエイズ検査ができる(O)	155	69.2	16	7.1	53	23.7	61	63.5	5	5.2	30	31.3	252	68.9	20	5.5	94	25.7	468	68.2	41	6	177	25.8	0.62
8.HIV検査で感染がわかった場合、名前や住所が国に報告される(X)	36	16.1	88	39.3	100	44.6	8	8.3	35	36.5	53	55.2	37	10.1	99	27	230	62.8	81	11.8	222	32.4	383	55.8	0.00

患者さんへのアンケート 登録番号 _____

調査へのご参加ありがとうございます。この調査は、医療機関におけるエイズ検査とエイズ関連知識の普及を目的として行っているものです。知識については、アンケートご回答後に、正解をお渡しします。答えたくない質問にはお答えにならなくても結構です。

問1. あなたの性別をお答えください (○は1つだけ)。

1. 男性 2. 女性 3. その他

問2. あなたの年齢は (数値をご記入ください) _____ 歳

問3. これまで、性感染症 (クラミジア、淋病、梅毒、性器ヘルペス、尖圭コンジリウマなど) にかかったことがありますか? (○は1つだけ)

1. いいえ
 2. はい ⇒ 病名は何でしたか? _____
 3. わからない

問4. これまでエイズ検査を受けたことがありますか?

1. いいえ
 2. はい → 受けた回数は何回ですか? (○は1つだけ)
 a. 1回
 b. 2回
 c. 3回以上

問5. 本日は、エイズ検査を受ける予定でこられましたか?

1. いいえ 2. はい

問6. 本日は、無料でエイズ検査を受けられますが、受けますか?

1. いいえ 2. はい

問7. 現在、あなた自身が性行為によってエイズウイルスに感染する可能性はどのくらいあると思いますか? (○は1つだけ)

1. まったくないと思う。
 2. 低いと思う。
 3. 中くらいと思う。
 4. 高いと思う。

問8. 次の情報は正しいと思いますか、正しくないと思いますか? それぞれについて当てはまるところに○をつけてください。

	正しい	正しくない	わからない
1. 最近、わが国のエイズウイルス感染者数は増加している。 ➡			
2. 最近わが国のエイズウイルスの感染経路は性行為によるものが最も多い。 ➡			
3. 治療薬の進歩で、エイズウイルスに感染してから発病するまでの期間を遅らせることができるようになった。 ➡			
4. エイズウイルスに感染している妊婦から赤ちゃんにエイズウイルスが感染する可能性がある。 ➡			
5. 性感染症(性病)にかかっていると、エイズウイルスに感染しやすい。 ➡			
6. 健康に見えてもエイズウイルスに感染している可能性がある。 ➡			
7. 保健所では名前を言わずに無料でエイズ検査ができる。 ➡			
8. エイズ検査で感染がわかった場合、名前や住所が国に報告される。 ➡			

以上です。ありがとうございました。

薬物乱用・依存者におけるHIV感染と行動のモニタリングに関する研究 (2011年)

研究分担者：和田 清 (国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所薬物依存研究部)

班 員：石橋正彦 (おおりん病院)、中村亮介 (都立松沢病院)、前岡邦彦 (瀬野川病院)、
森田展彰 (筑波大学)

研究協力者：飯田信夫 (回生病院)、山田幸子 (アパクリニック)、津久江一郎 (瀬野川病院)、茨城ダルク、
鹿島ダルク、千葉ダルク、栃木ダルク、日本ダルク、横浜ダルク、他

研究要旨 ① 薬物乱用・依存者におけるHIV感染を含めたSTD感染の実態を把握し、あわせて、注射器注射針の使用実態、性行動等HIV感染に関わるハイリスク行動を調査することによって、薬物乱用・依存者に対するHIV対策の基礎資料に供することを目的とした。② 研究は「1. 精神科医療施設に入院した薬物依存・精神病患者調査」(病院群調査)、「2. 薬物依存症回復支援施設における薬物乱用・依存者調査」(回復支援施設群調査)の2部門調査から成っている。いずれの調査も、2011年1月1日～2011年12月31日に入院、入所(一部通所)した者を対象とした。③ 病院群では4施設の初回対象患者139人を分析した。この4病院で、わが国の覚せい剤関連精神疾患患者全体の約12%は捕捉できると推定している。回復支援施設群は6施設の初回検査者67人を分析した。【病院群調査】④ 病院群で、HIV感染者1名認められたが、その1名は東アジア某国のMSMであった。⑤ 覚せい剤関連患者では、HCV抗体陽性率が38.0% (2010年は44.6%。以下、括弧内は2010年の結果。)と高い。このHCV抗体陽性率は経年的には確実に減少傾向を示していたが、2008年以降は増加傾向にある。感染のハイリスク行動は減少している(後述通り)にも関わらず、HCV抗体陽性率が上昇している原因としては、覚せい剤乱用者の高齢化(平均年齢が1998年には32.9歳であったものが、2011年には39.7歳に上昇している。)が推測された。⑥ 覚せい剤関連患者のハイリスク行動としては、68% (78%)の者に、これまでに注射による薬物使用の既往(以下、注射の既往)があり、この1年間でも38% (58%)の者に注射の既往があった。また、58% (64%)の者にシリンジ及び針の生涯共用経験があり、最近1年間に限っても、15% (15%)の者にシリンジ及び針の共用経験があった。経年的には注射の1年経験率、注射針の1年共用経験率は低下していたが、その背景には「あぶり」の普及があると推測される。【回復支援施設群調査】⑦ 覚せい剤乱用・依存者でのHCV抗体陽性率は50% (40%)であり、病院群の38%より高かった。このHCV抗体陽性率は、長年減少傾向にあったが、2005年以降は上昇傾向に転じている。その原因としては、病院群同様に覚せい剤乱用者の高齢化(平均年齢が1998年には29.7歳であったものが、2011年には40.5歳に上昇している。)が推測された。⑧ 回復支援施設群は、病院群よりも薬物依存症の「重症」群である。しかし、この群での、この1年間での注射経験率は病院群でのそれよりも低い。それは、この群の者たちが指導の元で共同生活を送りながら、回復を目指していることの表れであると考えられる。【両群合わせての結果】⑨ 「あぶり」を行った理由としては、「好奇心」「注射は怖いから」「気軽にできるから」の割合が高く、HIV感染、C型肝炎感染が気になって「あぶり」を行った者は極めて少ないことが明らかになった。この「あぶり」は、HIV感染と直接の関連はないが、その気軽さ及びファッションナブルな感覚から覚せい剤乱用自体を拡大させる危険があり、薬物乱用防止の観点からは決して歓迎される形態とは言えない。同時に、その気軽さ及びファッションナブルさから、性行動と結びつきやすい傾向が伺え、薬物使用と性行動との関係に関する対応が必要である。⑩ 病院群、非病院群に関係なく、HCV抗体の陽性・陰性について、年齢、これまでの注射の回数、入れ墨の有無、風俗での性接触を独立変数として、判別分析を行ってみた。その結果、固有値が1.072、Wilksのラムダが0.483 ($p < 0.000$)であり、正答率は83.2～90.7%で、構造行列の相関係数では、注射の回数: 0.923、年齢: 0.413、入れ墨: 0.321、風俗での性接触: 0.238であり、従来通り、この順に判別に寄与する程度が大きいことが確認された。⑪ 薬物乱用・依存者のHIV感染は、注射行為のみならず、性行為による感染の可能性と重複していることが多そうで、今後も、その両面からHIV感染の実態を把握してゆく必要がある。

A. 目的

薬物乱用・依存者におけるHIV感染を含めたSTD感染の実態を把握し、あわせて、注射器、注射針の使用実態、性行動等HIV感染に関わるハイリスク行動を調査することによって、薬物乱用・依存者に対するHIV対策の基礎資料に供することを目的とした。

B. 研究グループの構成と研究方法

本研究グループは、下記のように2つのサブグループより成り立っている。

1. 精神科医療施設に入院した薬物依存・精神病患者調査（病院群調査）
 - 首都圏③病院
 - 中国圏②病院
 - 九州圏⑥病院、⑦病院
2. 薬物依存症回復支援施設における薬物乱用・依存者調査（回復支援施設群調査）
 - ⑩ダルク ⑮ダルク
 - ⑬ダルク ⑰ダルク
 - ⑭ダルク ⑱ダルク

わが国で乱用されている依存性薬物は、医療機関を受診する乱用・依存者数の上では、有機溶剤と覚せい剤が圧倒的に多かったが、最近では有機溶剤が激減し、医薬品、多剤乱用の割合が高くなって来ている。多くの依存性薬物は、乱用の繰り返しにより、高頻度に精神病を引き起こすため、薬物乱用・依存者を調査するには、精神科医療施設での調査が効果的である。また、覚せい剤の乱用は、静脈注射によることが多いため、HIV感染の危険がきわめて高い。

そこで、当研究グループでは、薬物乱用・依存者が多いと考えられる地域の、かつ、薬物依存・精神病患者を多く診ている病院を調査定点とし、患者の承諾を得た上で、診療録からのデータの転記調査を実施した（図1○）。調査定点の4病院で、わが国の覚せい剤関連精神疾患患者全体の約12%（2009年6月30日現在の全国精神科病院の病名別在院患者数を元にして）は捕捉できると推定している。

また、薬物乱用・依存者の全てが医療施設を受診するわけではないため、薬物依存症回復支

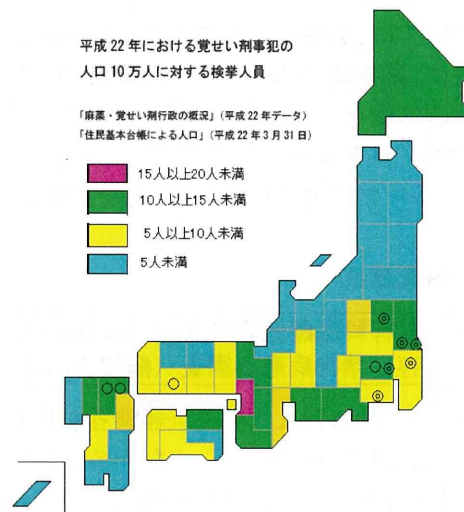


図1 平成20年度における覚せい剤事犯の人口10万人に対する検挙人員と調査定点

援グループ（図1◎）の協力を得て、薬物依存症回復支援施設での薬物乱用・依存者に対する個人面接聞き取り調査・採血調査も、本人の同意の下で実施した。

いずれの調査も、調査期間は2011年1月1日～2011年12月31日である。

また、本調査については国立精神・神経医療研究センターの倫理委員会の承認を得た上で実施した。

覚せい剤等の使用は、わが国では、それ自体が犯罪行為であり、本調査は違法行為の掘り起こしの側面を持っており、調査への同意を得ることが極めて困難な調査である。しかも、ハイリスク行動に関する聞き取り調査には、調査者側の訓練・経験が必要であり、調査実施の困難性はなおさらである。

C. 本年度の目標

「1. 精神科医療施設に入院した薬物依存・精神病患者調査」はすでに、最低限の調査定点を確保（図1）し、年間、わが国の覚せい剤関連精神疾患患者全体の約12%（2009年6月30日現在の全国精神科病院の病名別在院患者数を元にして）の患者調査を実施できる体制になっている。また、「2. 薬物依存者調査薬物依存症回復支援施設における薬物乱用・依存者調査」は、調査実施と共に、HIV感染及び肝炎予防啓

発プログラムという意味も兼ねており、肝炎患者については、必要に応じて医療機関を紹介すると共に、薬物依存についても、必要に応じて、医療機関に依存者を結びつけるというアウトリーチ的プログラムとして実施している。今年度は6グループの協力を得て、研究を実施した。

D. 各研究結果

研究1 精神科医療施設に入院した薬物依存・精神病患者調査（病院群調査）

初回検査者は152人（本調査経験者を含めると延べ212人）であったが、うち13名に関しては、入院の原因となった薬物名の転記漏れがあったため、対象から外した。その結果、分析対象は139名である。

対象患者をICD-10分類に従って分類し、各カテゴリ毎に人口統計学的属性・血清検査結果、身体所見を示したものが表1である。

性別では、「鎮静睡眠薬」患者を除けば、これまで同様に男性が圧倒的に多く、男：女は約6.5:3.5であった。

年齢はICD-10分類で、「多剤」は20～30歳代、「鎮静睡眠薬」は30～40歳代、「覚せい剤」は30～40歳代に多く、我が国の乱用薬物の代名詞的存在であった「揮発性溶剤」（有機溶剤）は「人気」の激減とともに高齢化が進み、40歳代に一人いるだけであった。

「鎮静睡眠薬」では、昨年を除けば、原則的に、男性より女性の割合が高い。

ICD-10分類上の「鎮静睡眠薬」を除けば、独身者が多い一方で、離婚歴のある者の割合が一般人口での割合より高いのも従来通りであった。

2011年の本調査では、HIV感染者は1名認められたが、その1名は東アジア某国のMSMであり、詳細は「外国人薬物使用者等のHIV感染と行動のモニタリングに関する研究」（分担研究者：中村亮介）を参照していただきたい。

表1は一連の本調査により特定された日本人HIV抗体陽性者のまとめである。

初めてHIV感染者を認めたのは、2001年調査である（累積で1人/1868人）。そのケースは覚せい剤依存の30歳男性であったが、注射による

これまでの日本人HIV陽性ケース（日本人）

No.	年	年齢	性別	診断	感染経路
1	2001	30	男	覚せい剤依存症 (IDU経験なし)	タイにてCSWから
2	2002	27	男	多剤依存症	MSM間での性行為
3	2002	31	女	覚せい剤依存症	IDUsである性的伴侶より
4	2004	33	女	覚せい剤依存症	CSWの経験あり
5	2008	46	男	覚せい剤精神病 (HIV感染後始めた)	MSM間での性行為
6	2008	39	男	覚せい剤依存症 (IDU経験なし)	MSM間での性行為
7	2011	40	男	韓国 覚せい剤依存症	MSM間での性行為 +性的伴侶とIDU

薬物乱用歴はなく、タイでのCSWとの性接触による感染と考えられるケースであった。しかし、2002年調査では、注射による薬物使用者（IDUs）である性的伴侶から感染したと考えられる31歳の覚せい剤依存者（女性）1名とMSM間での性行為により感染したと考えられる27歳の多剤依存者（男性）1名が特定された。2004年調査では、覚せい剤依存の既往とCSWの経験のある33歳女性のエイズ患者1名が特定された。2008年調査では、HIV感染後に注射での覚せい剤乱用を始めて幻覚妄想状態になったゲイの男性と5Meo-DIPT、ラッシュと覚せい剤（「あぶり」のみ）の乱用があるゲイの男性、計2名のHIV感染が確認された。

以上のように、薬物乱用・依存者のHIV感染は、性行為による感染の可能性と重複しており、その両面からHIV感染の実態を把握してゆく必要がある。

HCV感染については、これまで同様、覚せい剤関連患者におけるHCV抗体陽性率が高く、38.0%（2010年では44.6%）であった。

身体所見では、覚せい剤・多剤関連患者における「注射痕あり」「入れ墨あり」「指つめあり」の率が高く、これらの群での社会的偏りと注射による薬物乱用の高さを示唆していた。

また、「根性焼き」とは、有機溶剤乱用時（ICD-10では揮発性溶剤F18）に、タバコの火を自らの手の甲に押しつけることによって出来る火傷痕であるが、その存在は有機溶剤乱用の既往を推測させるものであり、「揮発性溶剤」患者のみならず、覚せい剤関連患者や多剤患者にも認められ、有機溶剤の乱用が覚せい剤等の乱用へとつながり易いという経験則を裏打ちしていることが多い。

覚せい剤関連患者における肝炎抗体（抗原）陽性率の推移を図2に示した。1996年以降、C型肝炎抗体陽性率は確実に減少傾向にあるが、

2008年以降は、増加傾向が同われ、その原因究明が求められるが、この問題に関しては後述したい。

表2は、注射行動・性行動等のHIV感染に関する危険行動調査の結果である。

わが国では、依存性薬物の静脈注射とは、事実上、覚せい剤の静脈注射を意味している。表2に示すように、覚せい剤関連患者の生涯注射経験率は68.3%（2010年で77.8%）と高く、覚せい剤関連患者の58%（2010年で64%）の者に、シリンジ／針の生涯共用経験があった。

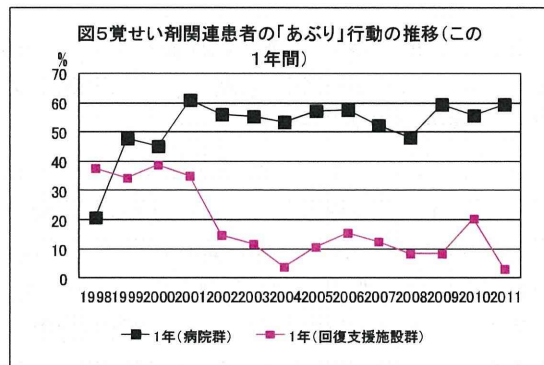
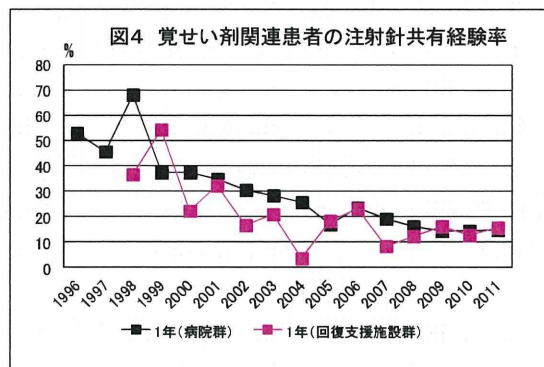
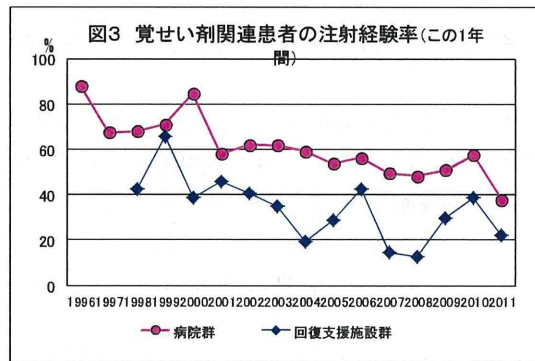
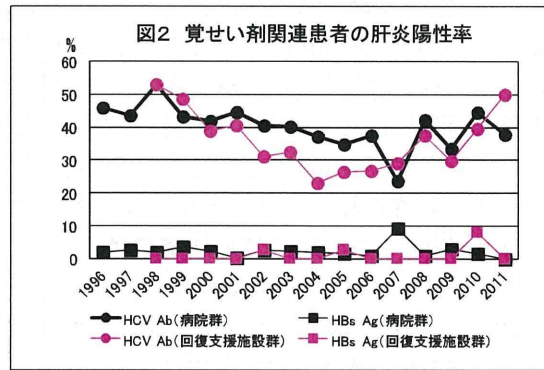
最近1年間に限れば、注射経験率は下がるが、それでも覚せい剤関連患者の38%（2010年で約58%）に最近1年間での注射既往があり、約15%（2010年で約15%）の者にシリンジ／針の共用経験もあった。

図3は覚せい剤関連患者の注射行動の推移を示している。注射の1年経験率は経年的に緩やかな低下傾向であったが、2009年以降は上昇傾向が同われ、今後の動向が気になったが、幸い2011年では激減していた。1996年以降の注射経験率（1年）低下の背景には「あぶり」の普及とその定着（図5）が影響していると推定される。

図4は注射針の共用経験率の推移を示している。注射針の共用経験率は経年的に確実に減少しており、注射経験率（図3）のような2009年以降の増加傾向も認められない。その背景には、「あぶり」の普及・定着（図5）と、使い捨て用のインシュリン用の注射器の（乱用者間の）普及が推測される。

第2次覚せい剤乱用期（1970年～1994年）には、覚せい剤の乱用と言えば、静脈注射一辺倒であったが、その後の第3次乱用期（1995年～現在）では、覚せい剤を火であぶって吸う「あぶり」が若い年代の覚せい剤乱用者間で広がった。図5は「あぶり」の経験率を示しているが、2001年以降、「あぶり」が定着した感がある。

また、この1年間で、注射と「あぶり」のどちらが多かったかを調べたが（表2）、2001年調査で、初めて「あぶり」が注射を上回ったが、2002年調査～2004年調査では再び注射優位となっていた。2005年では全く同率であったが、2006年調査以降、再び「あぶり」優位となっている。「あぶり」はHIV感染とは直接の関連は



ないが、その気軽さ及びファッションナブルな感覚から、覚せい剤の乱用自体を拡大させる危険があり、薬物乱用防止の視点からは決して歓迎される形態とは言えない。しかも、その気軽さ、ファッションナブルさから、性行動との結びつきの促進が憂慮され、看過できない問題である。

最近1年間での「風俗」での性交渉経験率は、対象データがないため、高い低いを言えないが（表2）、利用の際のコンドームの使用は徹底されておらず、啓発が必要である。

「風俗」以外での不特定多数との性交渉（「行きずり」の性交渉）経験率も、最近1年間での「風俗」での性交渉経験率と同じような解釈ができる。

最近1年間での海外渡航者（表2）は、数の上では少ないが、渡航した者の渡航先での薬物使用率、性接触率は高く、注意を要する。

また、国内での外国人との性接触は「風俗」で多く、これもHIV感染の危険因子と考えられる。

表3は、ICD-10分類にかかわらず、注射の既往、入れ墨の有無による人口統計学的属性、血清検査結果、身体所見を示したものである。

最近1年間で注射既往のある者の平均年齢は約42歳（2010年は約41歳）であり、これまでに注射既往のない者のそれは約35歳（2010年では35歳）で、以前には注射既往があるが、この1年間ではない者のそれは約42.5歳（2010年では約42歳）であった。この年齢の順位は、例外的年を除けば、従来通りであった。

また、HCV抗体陽性率は、注射による乱用経験のある二つの群で明らかに高く、HCV感染が注射針の共用に起因することを強く示唆している。

また、注射経験者では「入れ墨」保有率が高く、「指つめ」ありの率も高く、注射経験者の社会的属性の偏りを示唆している。

また、「入れ墨」は、皮膚を彫る際の針によってHCV、HIV感染等の感染危険行動になり得る。表3に示したように、「入れ墨」保有者でのHCV抗体陽性率は50%（2010年では67%）と高かった。

表4は、ICD-10分類に関わらず、調査対象を注射既往、入れ墨の有無から、注射行動、性行動についてみたものである。

従来、この1年間にも注射の既往がある群で、この1年間での「風俗」での性接触等危険性行動が3群中最も高かったが、今回の調査でも結果は同じであった。

以上より、覚せい剤関連患者では、注射行動という危険行動に加えて、入れ墨保有率も高く、危険性行動も高く、複合的に危険性が増していると考えられる。

研究2 薬物依存症回復支援施設における薬物乱用・依存者調査（回復支援施設群調査）

初回検査者67人（本調査経験者を含めると延べ228人）を調査した。

表5はICD-10分類にもとづく、人口統計学的属性、血清検査結果、身体所見を示している。

未婚者が多いと同時に離婚経験者も多いことも、病院群と同じであった。

また、覚せい剤関連患者でのHCV抗体陽性率は50.0%（2010年では39.5%）であり、病院群の38.0%（表1）より高い。また、2005年以降、上昇傾向にあり（図2）、その原因については後述したい。

覚せい剤関連患者についての、研究1と研究2の両群での比較では、「入れ墨」のある率と「指つめ」のある率は、それぞれ病院群：回復支援施設群＝28:38（2010年では23:41）、12:19（2010年では8:13）であり、従来通り、回復支援施設群で高い傾向が伺われた。「根性焼き」のある率は回復支援施設群で明らかに高かった（4:25）が、「自傷痕」のある割合は、13:12.5とほとんど同じであった。

もともと、回復支援施設群は、病院群よりも若くして薬物乱用を初め、精神病理学的リスクも高い者が多い傾向にある。この傾向が前述の身体的特徴の違いとなって現れているようである。

図5に示したように、この群は病院群よりも早い時期から「あぶり」を含めて、あらゆる方法で薬物を使用してきた者が多い傾向にあり、薬物依存症の「重症」群でもある。しかし、この群でのこの1年間での注射経験率（図3）は病院群より低い。これは、この群の者たちが、薬物を断ち切るために、回復支援グループの指導

の元で共同生活を送りながら、回復を目指していることの表れであると考えられる。

研究3 HCV感染に関するハイリスク因子について

本調査研究では、調査の度にHCV感染率が高率である。そこで、覚せい剤に限定せず、病院群と回復支援施設群の双方の初回検査者のデータを併せて、HCV感染に関するハイリスク因子について検討した。

表9は、今回の検査を受ける際に、注射による薬物の使用はHIV感染・C型肝炎の主な感染経路になっていることを知っていたかどうかに関する初回検査者の結果である。注射によるHIV感染、HCV感染の危険を知らなかった者は両群で違いはなかった。本来、知識があれば、危険行動はとらないと考えがちであるが、「逸脱の世界」では、往々にして、経験者の方が知識を持っているということもあり得る世界である。

また、表10は「あぶり」を行った理由についての回答である。IDU非経験者群とIDU経験者群とで有意差は認められなかった。むしろ、HIV感染、C型肝炎感染が気になって「あぶり」を行った者が少ないことに留意する必要がある。

図6は、注射による薬物使用の経験の有無とHCV抗体陽性率との関係を示している。注射による薬物使用の経験がある者でのHCV抗体陽性率が明らかに高かった。

図7は、入れ墨の有無とHCV抗体陽性率との関係を示している。入れ墨のある者でのHCV抗体陽性率は明らかに高かった。

図8は、この1年間での風俗経験とHCV抗体陽性率との関係を示している。この1年間での風俗経験及びその際のコンドーム使用未使用とHCV抗体陽性率との間には、相関が認められた。

図9は、年代とHCV抗体陽性率との関係を示している。年代が上がるほどHCV抗体陽性率が高くなることが明らかとなった。

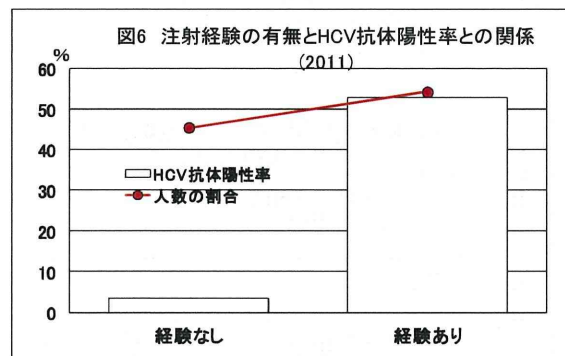
そこで、HCV抗体の陽性・陰性について、年齢、これまでの注射の回数、入れ墨の有無、風俗での性接触を独立変数として、判別分析を行ってみた。その結果、固有値が1.072、Wilksのラムダが0.483 (p<0.000) であり、モデルとしては良好とはいえないが、正答率は83.2～

表9 初回検査者におけるHIV/HCV感染と注射との関係を知らなかった者の割合 (2011)

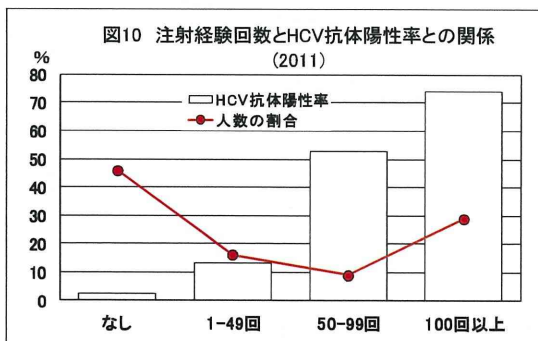
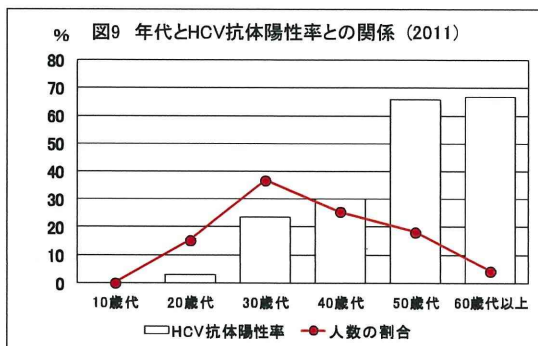
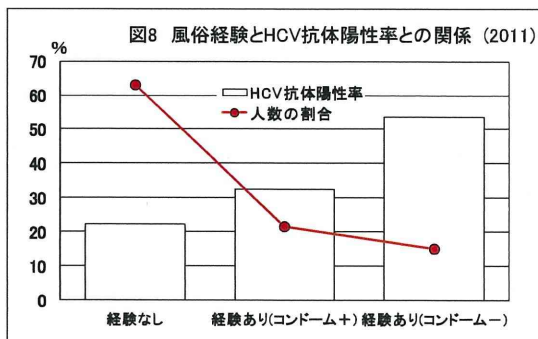
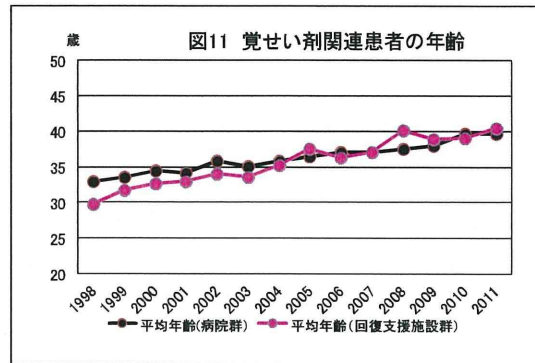
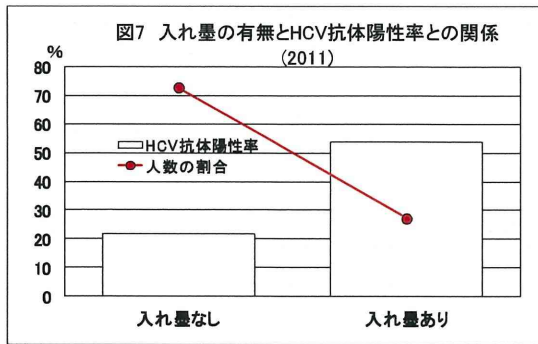
	HIVについて知らなかった者	C型肝炎について知らなかった者
IDU非経験者	10.7% (3/28)	10.7% (3/28)
IDU経験者	18.8% (12/64)	10.9% (7/64)

表10 初回検査者における「あぶり」の理由 (2011)

	IDU非経験者	IDU経験者
好奇心	75.0% (6/8)	54.5% (12/22)
注射は怖いから	50.0% (4/8)	27.3% (6/22)
気軽にできるから	50.0% (4/8)	18.2% (4/22)
回数を多くできるから	0% (0/8)	0% (0/22)
依存になりにくいと思ったから	37.5% (3/8)	13.6% (3/22)
針が手に入らなかったから	0% (0/8)	31.8% (7/22)
HIV感染が気になったから	0% (0/8)	4.5% (1/22)
C型肝炎感染が気になったから	0% (0/8)	4.5% (1/22)
その他	12.5% (1/8)	9.1% (2/22)



90.7%で、構造行列の相関係数は、注射の回数：0.923、年齢：0.413、入れ墨：0.321、風俗での性接触：0.238であり、この順に判別に寄与する程度が大きいことが判明した。



一般人口における年齢とHCV抗体陽性率と間には、高齢になるほどHCV抗体陽性率が高まるという、年齢による累積効果とでも言うべき現象が存在するようであるが、図9に見る本調査の対象群における年代とHIV抗体陽性率との関係は、その現象の範囲を超える上昇ぶりである。

これは、注射針の共有が同世代の薬物乱用・依存者間で繰り返されてきた結果ではないかと考えられる。

ちなみに、図10は、これまでの注射による薬物使用回数とHCV抗体陽性率との関係を示している。これまでの注射回数というものは信頼性に欠ける面があるが、確かなことは、これまでに注射による薬物乱用の経験が無いという場合と、100回以上と言って良いほど多数回の注射経験があるという2点であろうと推定できる。従って、図10の意味するところは、注射回数が増えれば増えるほど、HCV抗体陽性率は高まると解釈して問題はないであろう。

■2005年ないしは2008年からのHCV抗体陽性率上昇の原因は何か？

前述したように、回復支援施設群では2005年から、また、病院群では2008年から、HCV抗体陽性率が上昇してきている。しかし、HCV感染に最も関係していると考えられる注射行動は、確実に減少している(図3, 図4)のであり、矛盾のように思われる。また、図7、図8に示す入れ墨保有者や風俗経験者が年々増加しているということもない。

どうやら、答えは図11にありそうである。図11は一連の本調査での覚せい剤関連患者の平均年齢の推移を見たものである。1998年調査で

は、覚せい剤関連患者の平均年齢は病院群で32.9歳であったのが、2011年には39.7歳であり、回復支援施設群では、同じく29.7歳から40.5歳まで上昇しているのである。

覚せい剤乱用者の年齢が、高齢化してきており、その結果がHCV抗体陽性率の上昇として現れていると考えるのが自然のようである。この覚せい剤乱用者の高齢化の背景には、今日の日本の薬物乱用の特徴として当研究者らが指摘する違法薬物から脱法ドラッグへのシフト、すなわち「捕まる行為から捕まらない行為」への流れ¹⁾があることは確かである。

E. 結論

① 薬物乱用・依存者におけるHIV感染を含めたSTD感染の実態を把握し、あわせて、注射器注射針の使用実態、性行動等HIV感染に関わるハイリスク行動を調査することによって、薬物乱用・依存者に対するHIV対策の基礎資料に供することを目的とした。

② 研究は「1. 精神科医療施設に入院した薬物依存・精神病患者調査」(病院群調査)、「2. 薬物依存症回復支援施設における薬物乱用・依存者調査」(回復支援施設群調査)の2部門調査から成っている。各研究においては、対象者の同意の下で、調査用紙によるハイリスク行動の聞き取り調査と採血による血清学的検査、ないしは診療録からの転記調査を実施した。いずれの調査も、2011年1月1日～2011年12月31日に入院、入所(一部通所)した者を対象とした。

③ 病院群では4施設の初回対象患者139人(152人を調べたが、うち13名は、入院の原因となった薬物名が不明であったため、分析からは外した。本調査経験者を含めると延べ212人を調べた。)を分析した。この4病院で、わが国の覚せい剤関連精神疾患患者全体の約12%(2009年6月30日現在の全国精神病院の病名別在院患者数を元にして)は捕捉できると推定している。回復支援施設群は6施設の初回検査者67人(検査経験者を含めると254人)を分析した。【病院群調査】

④ 病院群で、HIV感染者1名認められたが、その1名は東アジア某国のMSMであり、詳細は「外国人薬物使用者等のHIV感染と行動のモ

ニタリングに関する研究」(分担研究者:中村亮介)を参照していただきたい。

⑤ 病院群での覚せい剤関連患者では、HCV抗体陽性率が38.0%(2010年は44.6%。以下、括弧内は2010年の結果である。)と高い。このHCV抗体陽性率は経年的には確実に減少傾向を示していたが、2008年以降は増加傾向にある。

感染のハイリスク行動は減少している(後述通り)にも関わらず、HCV抗体陽性率が上昇している原因としては、覚せい剤乱用者の高齢化(平均年齢が1998年には32.9歳であったものが、2011年には39.7歳に上昇している。)が推測された。

⑥ 病院群での覚せい剤関連患者のハイリスク行動としては、68%(78%)の者に、これまでに注射による薬物使用の既往(以下、注射の既往)があり、この1年間でも38%(58%)の者に注射の既往があった。また、58%(64%)の者にシリンジ及び針の生涯共用経験があり、最近1年間に限っても、15%(15%)の者にシリンジ及び針の共用経験があった。経年的には注射の1年経験率、注射針の1年共用経験率は低下していたが、その背景には「あぶり」の普及があると推測される。

【回復支援施設群調査】

⑦ 回復支援施設群の覚せい剤乱用・依存者でのHCV抗体陽性率は50%(40%)であり、病院群の38%より高かった。このHCV抗体陽性率は、長年減少傾向にあったが、2005年以降は上昇傾向に転じている。その原因はとしては、病院群同様に覚せい剤乱用者の高齢化(平均年齢が1998年には29.7歳であったものが、2011年には40.5歳に上昇している。)が推測された。

⑧ 回復支援施設群は病院群よりも早い時期から「あぶり」を含めて、あらゆる方法で薬物を使用してきた者が多い傾向にあり、薬物依存症の「重症」群でもある。しかし、この群での、この1年間での注射経験率は病院群でのそれよりも低い。それは、この群の者たちが、薬物を断ち切るために、回復支援施設での指導の元で共同生活を送りながら、回復を目指していることの表れであると考えられる。

【両群合わせての結果】

⑨ 「あぶり」を行った理由としては、「好奇

心」「注射は怖いから」「気軽にできるから」の割合が高く、HIV感染、C型肝炎感染が気になって「あぶり」を行った者は極めて少ないことが明らかになった。この「あぶり」は、HIV感染と直接の関連はないが、その気軽さ及びファッションナブルな感覚から覚せい剤乱用自体を拡大させる危険があり、薬物乱用防止の視点からは決して歓迎される形態とは言えない。同時に、その気軽さ及びファッションナブルさから、性行動と結びつきやすい傾向が伺え、今後、薬物使用と性行動との関係に関する対応が必要である。

⑩ 病院群、非病院群に関係なく、HCV抗体の陽性・陰性について、年齢、これまでの注射の回数、入れ墨の有無、風俗での性接触を独立変数として、判別分析を行ってみた。その結果、固有値が1.072、Wilksのラムダが0.483

($p < 0.000$)であり、正答率は83.2~90.7%で、構造行列の相関係数では、注射の回数:0.923、年齢:0.413、入れ墨:0.321、風俗での性接触:0.238であり、従来通り、この順に判別に寄与する程度が大きいことが確認された。

⑪ 薬物乱用・依存者のHIV感染は、注射行為のみならず、性行為による感染の可能性と重複していることが多そうで、今後も、その両面からHIV感染の実態を把握してゆく必要がある。

【参考文献】

- 1) 和田 清、尾崎 茂、近藤あゆみ：薬物乱用・依存の今日的状況と政策的課題。日本アルコール・薬物医学会雑誌(43)：120-131, 2008.

F. 発表論文

1. 和田 清、小堀栄子：薬物依存とHIV/HCV感染—現状と対策—。日本エイズ学会誌(13)：1-7, 2011.

G. 学会発表

なし

H. 知的所有権の取得状況

なし

表1【医療機関における薬物依存症者】の属性・血清検査・身体所見(%)

	F12	F13	F15	F18	F19	全体
	大麻	鎮静睡眠薬	覚せい剤	揮発性溶剤	多剤	
	2[1.4]	24[17.3]	96[69.1]	1[0.7]	16[11.5]	139[100]
性別						
男	1(50.0)	11(45.8)	67(69.8)	1(100)	10(62.5)	90(64.7)
女	1(50.0)	13(54.2)	29(30.2)	0(0)	6(37.5)	49(35.3)
年齢						
10歳代						
20歳代		4(16.7)	13(13.5)		6(37.5)	23(16.5)
30歳代		10(41.7)	37(38.5)		7(43.8)	54(38.8)
40歳代	2(100)	7(29.2)	26(27.1)	1(100)	1(6.3)	37(26.6)
50歳代		3(12.5)	19(19.8)		1(6.3)	23(16.5)
60歳代			1(1.0)		1(6.3)	2(1.4)
平均年齢±SD	45 ±0.7	38.1 ±10.2	39.7 ±9.4	44	34.1 ±11.1	38.9 ±9.8
現在の配偶歴(%)			n=89	n=0		n=131
未婚		8.3	51.7		31.3	40.5
既婚	100	79.2	16.9		31.3	31.3
離婚		12.5	30.3		31.3	26.7
死別		0	1.1		0	1.5
離婚歴あり	50	8.3	34.4(31/90)		31.3	29.5(39/132)
血清検査(%)						
HIV抗体陽性	0	0(0/23)	1.1(1/90)	0	0(0/15)	0.8(1/131)
HCV抗体陽性	0	8.7(2/23)	38.0(35/92)	0	26.7(4/15)	30.8(41/133)
HBs抗原陽性	0	0(0/23)	0(0/92)	0	0(0/15)	0(0/133)
HBs抗体陽性	0	0(0/23)	0(0/68)	-	0(0/15)	0(0/108)
HBc抗体陽性	0	0(0/23)	0(0/63)	-	0(0/15)	0(0/103)
TP抗体陽性率	0	0(0/23)	4.3(4/92)	0	0(0/15)	3.0(4/133)
性病既往(自己申告)(%)						
毛ジラミ	50	0	39.7(27/91)	-	37.5	25.6(34/133)
淋病	0	0	27.5(25/91)	-	18.8	21.1(28/133)
クラミジア	0	0	7.7(7/91)	-	12.5	6.8(9/133)
梅毒	0	0	14.3(13/91)	-	6.3	10.5(14/133)
身体所見(%)						
輸血の既往あり	50	0	1.2(1/83)	-	0(0/15)	1.6(2/124)
歯の著明不良あり	0	0	14.1(13/92)	-	12.5	11.2(15/134)
注射痕あり	0	0	27.5(25/91)	-	0	18.8(25/133)
入れ墨あり	100	0	28.3(26/92)	-	43.8	26.1(35/134)
指つめあり	0	0	12.0(11/92)	-	12.5	9.7(13/134)
根性焼きあり	50	0	4.3(4/92)	-	25	6.7(9/134)
自傷痕あり	50	0	13.0(12/92)	-	12.5(2/16)	11.2(15/134)

表2【医療機関における薬物依存症者】の注射行動・性行動(%)

	F12	F13	F15	F18	F19	全体
	大麻	鎮静睡眠薬	覚せい剤	揮発性溶剤	多剤	
	2[1.4]	24[17.3]	96[69.1]	1[0.7]	16[11.5]	139[100]
これまでに(%)						
注射経験あり	0.0	0.0	68.3(63/92)	-	50	53.0(71/134)
シリンジ共用経験+	0.0	0.0	58.1(50/86)	-	33.3(5/15)	43.3(55/127)
針の共用経験+	0.0	0.0	58.1(50/86)	-	33.3(5/15)	43.3(55/127)
注射回数						
なし	100.0	100.0	32.6(28/86)	-	53.3(8/15)	48.8(62/127)
1～49回			23.3(20/86)	-	20.0(3/15)	18.1(23/127)
50～99回			10.5(9/86)	-	6.7(1/15)	7.9(10/127)
100回以上			33.7(29/86)	-	20.0(3/15)	25.2(32/127)
最近1年間で(%)						
注射経験あり	0.0	0.0	37.8(34/90)	-	37.5	30.3(40/132)
シリンジ共用経験+	0.0	0.0	14.8(13/88)	-	26.7(4/15)	13.2(17/129)
針の共用経験+	0.0	0.0	14.8(13/88)	-	26.7(4/15)	13.2(17/129)
注射回数						
なし	100	100	63.6(56/88)	-	66.7(10/15)	71.3(92/129)
1～49回	0	0	33.0(29/88)	-	33.3(5/15)	26.3(34/129)
50～99回	0	0	2.3(2/88)	-	0(0/15)	1.6(2/129)
100回以上	0	0	1.1(1/88)	-	0(0/15)	0.8(1/129)
これまでに「あぶり」の経験あり						
	0.0	0	70.9(61/86)	-	75.0	57.0(73/128)
この1年間で「あぶり」の経験あり(%)						
	0.0	0	59.6(53/89)	-	56.3	47.3(62/131)
この1年間でどちらが多いか?						
注射	0.0	0	17.8(16/90)	-	18.8	14.4(19/132)
「あぶり」	0.0	0	47.8(43/90)	-	43.8	37.9(50/132)
同程度	0.0	0	7.8(7/90)	-	6.3	6.1(8/132)
どちらもなし	100.0	100	26.7(24/90)	-	31.3	41.7(55/132)
「風俗」での性接触あり(最近1年間)(%)						
なし	50.0	87.5	58.3(49/84)	-	46.7(7/15)	62.4(78/125)
あり(常にコンドーム+)	50	12.5	23.8(20/84)	-	40.0(6/15)	24.0(30/125)
あり(コンドーム-のことあり)	0.0	0	17.9(15/84)	-	13.3(2/15)	13.6(17/125)
「風俗」以外での不特定多数と性接触あり(最近1年間)(%)						
なし	100	95.8	67.1(57/85)	-	46.7(7/15)	70.6(89/126)
あり(常にコンドーム+)	0	4.2	15.3(13/85)	-	26.7(4/15)	14.3(18/126)
あり(コンドーム-のことあり)	0	0	17.6(15/85)	-	26.7(4/15)	15.1(19/126)
国内で外国人との性接触あり(最近1年間)						
なし	100	100	80.0(68/85)	-	73.3(11/15)	83.3(105/126)
あり(常にコンドーム+)	0	0	10.6(9/85)	-	13.3(2/15)	8.7(11/126)
あり(コンドーム-のことあり)	0	0	9.4(8/85)	-	13.3(2/15)	7.9(10/126)
性接触ありの場合の相手						
「風俗」で	-	-	82.4	-	75.0	81.0
「風俗」以外で	-	-	11.8	-	25.0	14.3
両方で	-	-	5.9	-	0.0	4.8
海外渡航歴のある者(最近1年間)(%)						
	0	4.2	4.5(4/89)	-	6.7(1/15)	4.6(6/130)
上記のうち						0
渡航先での薬物使用	-	100.0	75.0	-	0	66.7(4/6)
渡航先での性接触	-	0	100(4/4)	-	0	66.7(4/6)

表3 【医療機関における薬物依存症者】の注射経験、入れ墨と属性・血清検査・身体所見

	これまで 注射経験なし	これまで注射経験あり		入れ墨	
		1年間にはなし	1年間にもあり	なし	あり
	62[46.6]	30[22.6]	41[30.8]	99[73.9]	35[26.1]
性別					
男	29(46.8)	25(83.3)	31(75.6)	59(59.6)	26(74.3)
女	33(53.2)	6(16.7)	10(24.4)	40(40.4)	9(25.7)
年齢					
10歳代					
20歳代	15[68.2]	3[13.6]	4[18.2]	15[68.2]	7[31.8]
30歳代	31[57.4]	8[14.8]	15[27.8]	47[87.0]	7[13.0]
40歳代	13[39.4]	11[33.3]	9[27.3]	25[73.5]	9[26.5]
50歳代	3[13.6]	7[31.8]	12[54.5]	12[54.5]	10[45.5]
60歳以上	0[0]	1[50.0]	1[50.0]	0[0]	2[100]
平均年齢±SD	34.8±8.3	42.4±9.1	41.9±10.2	37.5±8.8	44.1±11.6
現在の配偶歴		n=29	n=40		
未婚	40.3	48.3	35.0	41.4	37.5
既婚	51.6	6.9	17.5	36.4	15.6
離婚	8.1	44.8	42.5	22.2	40.6
死別	0.0	0.0	5.0	0.0	6.3
離婚歴あり	8.1	51.7	45.0	22.2	51.5
血清検査(%)					
HIV抗体陽性率	0(0/59)	0(0/29)	2.6(1/38)	1.1(1/93)	0(0/33)
HCV抗体陽性率	3.4(2/59)	46.7	60.5(23/38)	24.5(23/94)	50.0(17/34)
HBs抗原陽性率	0(0/59)	0	0(0/38)	0(0/94)	0(0/34)
HBs抗体陽性率	0(0/59)	0(0/17)	0(0/32)	0(0/82)	0(0/26)
HBc抗体陽性率	0(0/59)	0(0/15)	0(0/29)	0(0/77)	0(0/26)
TPHA陽性率	0(0/59)	3.3	7.9(3/38)	3.2(3/94)	2.9(1/34)
性病既往(自己申告)(%)					
モジラミ	12.9	23.3	47.5(19/40)	16.3(16/98)	51.4
淋病	1.6	23.3	50.0(20/40)	12.2(12/98)	45.7
クラミジア	3.2	3.3	15.0(6/40)	7.1(7/98)	5.7
梅毒	1.6	13.3	22.5(9/40)	6.1(6/98)	22.9
身体所見(%)					
輸血の既往あり	1.7(1/60)	0(0/27)	2.8(1/36)	1.1(1/93)	3.2(1/31)
歯の著明不良あり	1.6	26.7	14.6	9.1	17.1
注射痕あり	0	36.7	32.5(13/40)	16.2	28.6
入れ墨あり	11.3	43.3	34.1		100.0
指つめあり	0	16.7	19.5	2.0	31.4
根性焼きあり	4.8	6.7	9.8	4.0	14.3
自傷痕あり	4.8	6.7	24.4	13.1	5.7

表4【医療機関における薬物依存症者】の注射経験、入れ墨と注射行動・性行動

	これまで			入れ墨	
	注射経験なし	1年間にはなし	1年間にもあり	なし	あり
これまで (%)	62[46.6]	30[22.6]	41[30.8]	99[73.9]	35[26.1]
これまで (%)					
注射経験あり	0	100	100	44.4	77.1
シリンジ 共用経験あり	0	77.8 (21/27)	89.2 (33/37)	34.4 (32/93)	67.6 (23/34)
針の共用経験あり	0	77.8 (21/27)	89.2 (33/37)	34.4 (32/93)	67.6 (23/34)
注射経験の注射回数					
なし	100	0 (0/27)	0 (0/38)	58.5 (55/94)	21.2 (7/33)
1～49回	0	48.1 (13/27)	26.3 (10/38)	19.1 (18/94)	15.2 (5/33)
50～99回	0	14.8 (4/27)	15.8 (6/38)	6.4 (6/94)	12.1 (4/33)
100回以上	0	37.0 (10/27)	57.9 (22/38)	16.0 (15/94)	51.5 (17/33)
最近1年間で (%)					
注射経験あり	0	0	100 (40/40)	27.3	39.4 (12/33)
シリンジ 共用経験	0	0	45.9 (17/37)	8.3 (8/96)	27.3 (9/33)
針の共用経験	0	0	45.9 (17/37)	8.3 (8/96)	27.3 (9/33)
注射経験の注射回数					
なし	100	100	0 (0/37)	75.0 (72/96)	60.6 (20/33)
1～49回	0	0	91.9 (34/37)	21.9 (21/96)	39.4 (13/33)
50～99回	0	0	5.4 (2/37)	2.1 (2/96)	0 (0/33)
100回以上	0	0	2.7 (1/37)	1.0 (1/96)	0 (0/33)
これまで「あぶり」の経験あり (%)	50.0	42.3 (11/26)	79.5 (31/39)	53.7 (51/95)	66.7 (22/33)
この1年間で「あぶり」の経験あり (%)	50.0	23.3	63.2 (24/38)	50.0 (48/96)	40.0 (14/35)
この1年間ではどちらが多いか? (%)					
注射	0	0	48.7 (19/39)	6.2 (6/97)	37.1 (13/35)
「あぶり」	50.0	23.3	30.8 (12/39)	43.3 (42/97)	22.9 (8/35)
同程度	0	0	20.5 (8/39)	7.2 (7/97)	2.9 (1/35)
どちらもなし	50.0	76.7	0 (0/39)	43.3 (42/97)	37.1 (13/35)
「風俗」での性接触あり (最近1年間) (%)					
なし	74.2	68.0 (17/25)	37.8 (14/37)	66.7 (62/93)	50.0 (16/32)
あり (常にコンドーム+)	25.8	28.0 (7/25)	18.9 (7/37)	21.5 (20/93)	31.3 (10/32)
あり (コンドーム-のことあり)	0	4.0 (1/25)	43.2 (16/37)	11.8 (11/93)	18.8 (6/32)
「風俗」以外での不特定多数と性接触あり (最近1年間) (%)					
なし	83.9	73.1 (19/26)	45.9 (17/37)	76.6 (72/94)	53.1 (17/32)
あり (常にコンドーム+)	14.5	19.2 (5/26)	10.8 (4/37)	10.6 (10/94)	25.0 (8/32)
あり (コンドーム-のことあり)	1.6	7.7 (2/26)	43.2 (16/37)	12.8 (12/94)	21.9 (7/32)
国内で外国人との性接触あり (最近1年間) (%)					
なし	87.1	92.3 (24/26)	70.3 (26/37)	88.3 (83/94)	68.8 (22/32)
あり (常にコンドーム+)	11.3	7.7 (2/26)	5.4 (2/37)	8.5 (8/94)	9.4 (3/32)
あり (コンドーム-のことあり)	1.6	0 (0/26)	24.3 (9/37)	3.2 (3/94)	21.9 (7/32)
性接触ありの場合の相手					
「風俗」で	75.0 (6/8)	100 (2/2)	81.8 (9/11)	81.8 (9/11)	80.0 (8/10)
「風俗」以外で	25.0 (2/8)	0 (0/2)	9.1 (1/11)	18.2 (2/11)	10.0 (1/10)
「風俗」と「風俗」以外の	0 (0/8)	0 (0/2)	9.1 (1/11)	0 (0/11)	10.0 (1/10)
外渡航歴のある者 (最近1年間) (%)	3.3 (2/60)	3.4 (1/29)	7.5 (3/40)	5.2 (5/97)	3.0 (1/33)
上記のうち					
渡航先で薬物使用のあった者	100 (2/2)	100 (1/1)	33.3 (1/3)	60.0 (3/5)	100 (1/1)
渡航先で性交渉のあった者	50.0 (1/2)	100 (1/1)	66.7 (2/3)	60.0 (3/5)	100 (1/1)

表5【薬物依存症回復支援施設入所者】の属性・血清検査・身体所見(%)

		主診断 (ICD-10)						全体
		F10	F12	F13	F15	F17	F19	
		アルコール	大麻	鎮静睡眠	覚せい剤等	タバコ	多剤	
		13[19.4]	2[3.0]	1[1.5]	32[47.8]	1[1.5]	18[26.9]	67 100]
性別	男	13(100)	2(100)		31(96.9)	1(100)	17(94.4)	64(95.5)
	女			1(100)	1(3.1)		1(5.6)	3(4.5)
年齢	20歳代	1(7.7)	1(50.0)		5(15.6)		3(16.7)	10(14.9)
	30歳代	1(7.7)	1(50.0)		11(34.4)	1(100)	9(50.0)	23(34.3)
	40歳代	3(23.1)		1(100)	10(31.3)		3(16.7)	17(25.4)
	50歳代	6(46.2)			4(12.5)		2(11.1)	12(17.9)
	60歳代	2(15.4)			2(6.3)		1(5.6)	5(7.5)
	平均年齢±SD	48.9	28.5	44.0	40.5	34.0	38.1	38.1
		±10.5	±12.0		±10.0		±11.4	±11.4
現在の配偶歴(%)								
	未婚	30.8	100		56.3	100	72.2	56.7
	既婚	15.4			12.5		11.1	11.9
	離婚	46.2		100	28.1		16.7	28.4
	死別	7.7			3.1		0.0	3.0
	離婚歴あり	61.5	0	100	40.6	0	16.7	37.3
血清検査(%)					n=28			n=63
	HIV抗体陽性	0	0	0	0	0	0	0
	HCV抗体陽性率	7.7	50.0	0	50.0	0	11.1	28.6
	HBs抗原陽性率	0	0	0	0	0	0	0
	HBs抗体陽性率	23.1	0	0	3.7	0	5.6	8.1
	HBc抗体陽性率	7.7	0	0	11.1	0	11.1	9.7
	TPHA陽性率	0	0	0	0	0	0	0
性病既往(自己申告)(%)								
	モジラミ	7.7	0	0	9.4	0	0	6.0
	淋病	31	0	0	12.5	0	5.6	13.4
	クラミジア	7.7	0	0	9.4	0	11.1	9
	梅毒	0	0	0	3.1	0	0	1.5
身体所見(%)								
	輸血の既往あり	23.1	0	100.0	16.1(5/31)	0	20.0(3/15)	19.0(12/6)
	歯の著明不良あり	61.5	50.0	100.0	62.5	0.0	77.8	65.7
	注射痕あり	7.7	50.0	0.0	25.0	0.0	5.6	16.4
	入れ墨あり	15.4	50.0	100.0	37.5	0.0	22.2	29.9
	指つめあり	15.4	0.0	0.0	18.8	0.0	0.0	11.9
	根性焼きあり	0.0	50.0	0.0	25.0	0.0	27.8	20.9
	自傷痕あり	7.7	50.0	0.0	12.5	0.0	16.7	13.4

表6【医療機関を受診していない薬物依存者】の注射行動・性行動(%)

	ICD-10						全体
	F10	F12	F13	F15	F17	F19	
	アルコール	大麻	鎮静睡眠剤	覚せい剤等	タバコ	多剤	
	13[19.4]	2[3.0]	1[1.5]	32[47.8]	1[1.5]	18[26.9]	67[100]
これまでに(%)							
注射経験あり	30.8	50.0	0.0	84.4	0.0	44.4	59.7
シリンジ共用経験+	23.1	50.0	0.0	71.9	0.0	33.3	49.3
針の共用経験+	23.1	50.0	0.0	71.9	0.0	33.3	49.3
注射回数							
なし	69.2	50.0	100.0	15.6	100.0	55.6	40.3
1~49回	7.7	0.0	0.0	9.4	0.0	16.7	10.4
50~99回	7.7	50.0	0.0	15.6	0.0	0.0	10.4
100回以上	15.4	0.0	0.0	59.4	0.0	27.8	38.8
最近1年間で(%)							
注射経験あり	0.0	0.0	0.0	21.9	0.0	11.1	13.4
シリンジ共用経験+	0.0	0.0	0.0	15.6	0.0	5.6	9.0
針の共用経験+	0.0	0.0	0.0	15.6	0.0	5.6	9.0
注射回数							
なし	100.0	100.0	100.0	78.1	100.0	88.9	86.6
1~49回	0.0	0.0	0.0	15.6	0.0	11.1	10.4
50~99回	0.0	0.0	0.0	3.1	0.0	0.0	1.5
100回以上	0.0	0.0	0.0	3.1	0.0	0.0	1.5
これまでに「あぶり」の経験あり(%)							
	23.1	50.0	0.0	56.3	0.0	38.9	43.3
この1年間で「あぶり」の経験あり(%)							
	0.0	0.0	0.0	3.1	0.0	0.0	1.5
この1年間でどちらが多いか?(%)							
注射	0.0	0.0	0.0	21.9	0.0	11.1	13.4
「あぶり」	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
同程度	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
どちらもなし	100.0	100.0	100.0	78.1	100.0	88.9	86.6
「風俗」での性接触あり(最近1年間)(%)							
なし	69.2	100.0	100.0	68.8	0.0	61.1	67.2
あり(常にコト ⁺ -ム ⁺)	15.4	0.0	0.0	18.8	100.0	11.1	16.4
あり(コト ⁺ -ム ⁻ のこともあり)	15.4	0.0	0.0	12.5	0.0	27.8	16.4
「風俗」以外での不特定多数と性接触あり(最近1年間)(%)							
なし	76.9	100.0	100.0	81.3	100.0	47.1	72.7
あり(常にコト ⁺ -ム ⁺)	15.4	0.0	0.0	3.1	0.0	5.9	6.1
あり(コト ⁺ -ム ⁻ のこともあり)	7.7	0.0	0.0	15.6	0.0	47.1	21.2
国内で外国人との性接触あり(最近1年間)(%)							
なし	84.6	100	100.0	90.6	100.0	94.1	90.9
あり(常にコト ⁺ -ム ⁺)	15.4	0.0	0.0	6.3	0.0	5.9	7.6
あり(コト ⁺ -ム ⁻ のこともあり)	0.0	0.0	0.0	3.1	0.0	0.0	1.5
性接触ありの場合の相手							
「風俗」で	0.0			33.3		0.0	14.3
「風俗」以外で	0.0			66.7		0.0	28.6
両方で	66.6			0.0		100.0	42.6
不明	33.3			0.0		0.0	14.3
海外渡航歴のある者(最近1年間)(%)							
	7.7	0.0	100.0	3.1	100.0	5.6	7.5
上記のうち 海外で薬物使用のあった者	0		100	0.0	0.0	100.0	40.0
海外で性交渉のあった者	0		0	0.0	0.0	0.0	0.0

表7【薬物依存症回復支援施設入所者】の注射経験、入れ墨と属性・血清検査・身体所見

	これまでに 注射経験なし	これまでに注射経験あり		入れ墨	
		27[40.3]	1年間にはなし 31[46.3]	1年間にもあり 9[13.4]	なし 47[70.1]
性別					
男	25[39.1]	31[48.4]	8[12.5]	46[71.9]	18[28.1]
女	2[66.7]	0[0]	1[33.3]	1[33.3]	2[66.7]
年齢					
20歳代	4[40.0]	3[30.0]	3[30.0]	7[70.0]	3[30.0]
30歳代	11[47.8]	10[43.5]	2[8.7]	18[78.3]	5[21.7]
40歳代	5[29.4]	8[47.1]	4[23.5]	10[58.87]	7[41.2]
50歳代	4[33.3]	8[66.7]	0[0]	8[66.7]	4[33.3]
60歳以上	3[60.0]	2[40.0]	0[0]	4[80.0]	1[20.0]
平均年齢±SD	40.9±12.0	43.3±10.5	34.1±7.2	40.6±11.5	42.2±10.2
現在の配偶歴					
未婚	59.3	54.8	55.6	59.6	50.0
既婚	14.8	9.7	11.1	12.8	10.0
離婚	22.2	32.3	33.3	23.4	40.0
死別	3.7	3.2	0.0	4.3	0.0
離婚歴あり	33.3	38.7	44.4	34.0	45.0
血清検査 (%)		n=29	n=9	n=45	n=18
HIV抗体陽性率	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
HCV抗体陽性率	0.0	51.9	44.4	15.6	61.1
HBs抗原陽性率	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
HBs抗体陽性率	11.1	3.7	12.5	6.8	11.1
HBc抗体陽性率	3.7	14.8	12.5	4.5	22.2
TP抗体陽性率	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
性病既往 (自己申告) (%)					
モジラミ	0.0	12.9	0.0	6.4	5.0
淋病	11.1	16.1	11.1	8.5	25.0
クラミジア	3.7	12.9	11.1	8.5	10.0
梅毒	0.0	3.2	0.0	2.1	0.0
身体所見 (%)					
輸血の既往あり	24.0(6/25)	20.7(6/29)	0	20.0(9/45)	16.7(3/18)
歯の著明不良あり	77.8	61.3	44.4	68.1	60.0
注射痕あり	3.7	22.6	33.3	8.5	35.0
入れ墨あり	11.1	48.4	22.2	0.0	100.0
指つめあり	3.7	22.6	0.0	8.5	20.0
根性焼きあり	14.8	29.0	11.1	12.8	40.0
自傷痕あり	0.0	29.0	0.0	6.4	30.0

表8【薬物依存症回復支援施設入所者】の注射経験、入れ墨と注射行動・性行動

	これまでに		これまでに注射経験あり		入れ墨	
	注射経験なし 27[40.3]	1年間にはなし 31[46.3]	1年間にもあり 9[13.4]	なし 47[70.1]	あり 20[29.9]	
これまでに (%)						
注射経験あり	0.0	100	100	48.9	85	
シリンジ 共用経験あり	0.0	80.6	88.9	36.2	80	
針の共用経験あり	0.0	80.6	88.9	36.2	80	
注射経験の注射回数						
なし	100.0	0.0	0.0	51.1	15.0	
1～49回	0.0	19.4	11.1	14.9	0.0	
50～99回	0.0	22.6	0.0	8.5	15.0	
100回以上	0.0	58.1	88.9	25.5	70.0	
最近1年間で (%)						
注射経験あり	0.0	0.0	100.0	14.9	10.0	
シリンジ 共用経験	0.0	0.0	66.7	8.5	10.0	
針の共用経験	0.0	0.0	66.7	8.5	10.0	
注射経験の注射回数						
なし	100.0	100.0	0.0	85.1	90.0	
1～49回			77.8	12.8	5.0	
50～99回			11.1	0.0	5.0	
100回以上			11.1	2.1	0.0	
これまでに「あぶり」の経験あり (%)						
	29.6	51.6	55.6	40.4	50.0	
この1年間で「あぶり」の経験あり (%)						
	0.0	0.0	11.1	2.1	0.0	
この1年間でどちらが多いか? (%)						
注射	0.0	0.0	100.0	14.9	10.0	
「あぶり」	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
同程度	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
どちらもなし	100.0	100.0	0.0	85.1	90.0	
「風俗」での性接触あり (最近1年間) (%)						
なし	74.1	64.5	55.6	68.1	65.0	
あり(常にコンドーム+)	11.1	22.6	11.1	14.9	20.0	
あり(コンドーム-のことあり)	14.8	12.9	33.3	17	15.0	
「風俗」以外での不特定多数と性接触あり (最近1年間) (%)						
なし	70.4	73.3	77.8	74.5	68.4	n=19
あり(常にコンドーム+)	7.4	6.7	0.0	6.4	5.3	
あり(コンドーム-のことあり)	22.2	20.0	22.2	19.1	26.3	
国内で外国人との性接触あり (最近1年間) (%)						
なし	92.6	90.0	88.9	97.6	73.7	n=19
あり(常にコンドーム+)	7.4	6.7	11.1	2.1	21.1	
あり(コンドーム-のことあり)	0.0	3.3	0.0	0.0	5.3	
性接触ありの場合の相手						
「風俗」で	0.0	33.3	0.0	0.0	20.0	
「風俗」以外で	0.0	33.3	50.0	0.0	40.0	
両方で	100.0	33.3	0.0	100.0	40.0	
不明	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	
海外渡航歴のある者 (最近1年間) (%)						
	14.9	3.2	0.0	6.4	10.0	
上記のうち						
渡航先で薬物使用のあった者	50.0	0.0		33.3	50.0	
渡航先で性交渉のあった	0.0	0.0		0.0	0.0	